

平成22年度岩手運輸支局
公共交通利便性向上・バリアフリー促進会議 議事概要

平成22年度岩手運輸支局公共交通利便性向上・バリアフリー促進会議[座長:元田良孝(岩手県立大学総合政策学部教授)]について、次のとおり開催されました。

1. 日 時：平成22年10月5日(火) 14:00～16:00
2. 場 所：プラザイン水沢 2階「プラザホール」
3. 議 事：「公共交通に関する施策について」(東北運輸局、岩手県、奥州市の施策を紹介)
「利用者の立場からの公共交通への意見について」(意見交換)

4. 意見交換の要旨

(□は、交通アドバイザーからの発言、■は、関係者からの方策や座長のまとめ)

① 鉄道について

- 乗継ぎ等に不安を感じており、高齢者向けの案内等サービスの充実を図ってほしい。
- 盛岡駅へのサービスマネージャー配置や各駅の職員に対する研修等に努めています。バリアフリー化の推進も必要ですが、大きな駅から整備となることをご理解お願いします。
- 在来線において、混雑時には増結等により柔軟に対応し、混雑の緩和に努めてほしい。
- 全体の車両数もあり増結は難しいところです。12月ダイヤ改正から朝の釜石～花巻の便を盛岡まで延長運行します。このようにダイヤ改正の際、混雑の緩和に努めています。

② バスについて

- 災害時の対応、道路状況の把握等のため、市内路線バスに無線機を設置してはどうか。
- 高速バスには設備はありますが、全車両へは難しく、乗務員の携帯電話を活用しています。
- 停留所に路線図を備え付けてほしい。
- 駅や商業施設等の停留所から整備しており、花巻市や北上市では整備したところです。実施する地域を拡大し、見やすく、わかりやすい路線図に取り替えていきます。
- 停留所に椅子やベンチを整備してほしい。
- 周辺住民の善意により椅子が置かれている状況です。利用者の安全、利便とともに関係法令、管理責任を考えるとベンチ等の整備のあり方について明確にする必要があります。
- バス車内に荷物置き場を設置してほしい。
- 車両の構造変更には該当しない荷物用フックの設置等、一部車両での試行を検討したい。
- フリー乗降区間を拡大してほしい。
- 交通量等に配慮し、安全を優先しながら実施区間の拡大に努めています。
- 車外放送を励行してほしい。エンジン音で聞こえない、発声自体が聞き取りにくいこともあるので改善してほしい。
- バスカードの残額について、カードのパンチ穴と車内の機器による表示では、視覚障がい者にはわからないので、教えてほしい。
- あらためて車外放送の徹底と残額の案内について社内指導しました。自動化等の費用を要する対処は難しく、利用者との連携、協力関係を活かしたサービスの向上に努めていきたい。

- 車内は禁煙となっているのに、たばこ臭いことがある。
 - 乗務直前に喫煙するとたばこの臭いを車内に持ち込むので、その点にも配慮いただきたい。

 - 車内で傘を販売しているが、より安価にできないか。
 - 売上げの一部を交通遺児への募金とすることに賛同し販売している。ご理解願いたい。
 - 募金との趣旨が不徹底に感じます。明示することで利用者の理解が得られると思います。

 - 降車ボタンの表示灯について、高齢者には見づらいので見やすくできないか。
 - 表示灯の変更ではありませんが、年度内に胆江地区の全車両に「音声合成システム」の導入を計画しており、音声案内によりわかりやすくなります。
- ③ タクシーについて
- 車内での会話は、地域情報等の発信ともなるよう、乗務員から語りかけてはどうか。
 - おもてなし、接遇について、研修等により意識をたかめていきたい。

 - 荷物を運ぶ際は、乗務員に手伝ってほしい。
 - 積極的に行なうよう指導しており、乗務員へ申しつけてほしい。
- ④ バリアフリーについて
- 水沢江刺駅にエレベーターを設置する時期について確認したい。
 - 新花巻駅とともに来年2月の完成予定です。

 - 在来線駅の段差解消、乗合バスの低床化の推進について。
 - 市町村にバリアフリー基本構想策定に取り組むよう働きかけており、関係者の合意形成により施設整備等の進むことを期待しています。また、経営状況からバス車両の低床化が進んでいませんが、事業者、自治体へ支援制度等をはじめ情報提供を続けていきます。

 - 駅における案内放送について、視覚障がいの方へ「黄色い線まで」は不適切ではないか。
 - 定着した言い回しではあるが、本社へもご意見について連絡したい。
- ⑤ 乗継ぎについて
- 新幹線駅と市中心部等を結ぶシャトルバスを試行してはどうか。
 - 新幹線駅経由のバスの利用実績が多くなく、新しい取組みを提起するのは難しい。

 - 水沢江刺駅の無料駐車場を私有化している人がいるのではないか。
 - 周辺住民による不正な使用は考えにくく、利用実態の把握が必要と思われます。
- ⑥ その他
- 新幹線による沿線への振動、騒音への対策について。
 - 早急に実態調査に取り組みたい。

 - タクシー乗務員について、キャップハンディ体験等により障がい者への対応を向上してほしい。
 - バリアフリー教室による体験や各社毎の取組みを続けたい。
- ⑦ まとめ
- この会議は、利用者と交通事業者の意見交換や相互理解を深める意義がある。利用者の要望については、出来るものから実施してほしい。
 - 20年後の人口構成は、80才以上の高齢者が大きく増加する。社会福祉の分野全般で対応が遅れており、交通関係では、バリアフリー化の徹底・推進が求められている。